



未来の杜せんだい2023  
～ Feel green! ～

## 特集

# 新たなにぎわいを ビジネスチャンスに!

## 全国都市緑化仙台フェア「未来の杜せんだい2023」開催

4月26日から6月18日までの54日間、仙台市で34年ぶりに「全国都市緑化仙台フェア(愛称:未来の杜せんだい2023 ~feel green!~)」が開催されます。今回のフェアでは、仙台市基本計画で「国際学術文化交流拠点」とし、都市の持続的発展を支える重要な拠点と位置付けられている「青葉山周辺エリア」がメイン会場となることもあり、これをきっかけに、まちに新たなにぎわいが生まれることが期待されます。また、次世代放射光施設の誕生やG7科学技術大臣会合の開催などで国内外から仙台に注目が集まる中、地域中小企業にとっては新たなビジネスチャンスとも言えるでしょう。

そこで今月号では、フェアの概要や集客および誘客戦略などをご紹介しますとともに、開催を契機とした人流の増加をチャンスと捉えて、新たな取り組みを行おうとしている事業者をご紹介します。



メイン会場に位置する大花壇「はなばた飾り」  
市民参画による植え付けを実施して作り上げる大花壇には、約200品種の花々が植えられる。開催期間中、さまざまな色の重なりを楽しめるのも特徴の一つ。

### 愛称は「未来の杜せんだい2023」

2023年は、仙台市の緑豊かな自然環境の形成に大きな役割を果たした「杜の都の環境をつくる条例」制定50周年という節目の年にあたります。そこで、毎年度、国内で開催されている「全国都市緑化フェア」を仙台で開催することで、コロナ禍で落ち込んだ交流人口の拡大と、それに伴う経済波及、さらには、東日本大震災からの復興や新しい杜の都のまちづくりを発信する機会とするために、2020年からこのフェアの開催誘致を進めてきました。今回の緑化フェアは、「杜の都から始まる未来、みどりを舞台に人が輝く」をテーマに、「未来の杜せんだい2023」を愛称に開催します。

## 花と緑に導かれ、 まちを回遊したくなるような 楽しい仕掛けを 用意しています。



仙台市 建設局  
全国都市緑化フェア推進室  
総務企画担当課長  
千代谷 馨一氏  
ちよや・けいいち



仙台市 建設局  
百年の杜推進部  
公園整備課長  
阿部 正浩氏  
あべ・まさひろ

仙台フェアは、1989年にも「89グリーンフェア仙台」の愛称で、7月29日から180日間の会期で開催されました。これは、市制施行100周年・政令指定都市移行記念事業として行われたもので、メイン会場は完成したばかりの七北田公園でした。大花壇をはじめとした多くの花壇や庭園が来場者をお迎えしたほか、当時は博覧会ブームだったこともあり、多くの企業・パビリオンが出展され、来場者は138万5000人にものぼったという記録があります。

### 3つのターゲットを設定し まち全体の経済効果を高める

「未来の杜せんだい2023」の来場者数は、合計で100万人を目指しています。訪れた方々に仙台のまち全体を回遊いただくことで、さらなる経済効果が見込まれるという考えから、メイン会場のほか、市内各所に会場を設けています。

- ① メイン会場:  
青葉山公園追廻地区、西公園南側地区、広瀬川地区
- ② まちなかエリア会場:  
仙台駅ペDESTリアンデッキ、青葉通、宮城野通、定禅寺通
- ③ 東部エリア会場:  
せんだい農業園芸センターみどりの杜、せんだい3・11メモリアル交流館、震災遺構仙台市立荒浜小学校、海岸公園、高砂中央公園(仙台うみの杜水族館)
- ④ 連携会場:  
東北大学 学術資源研究公開センター 植物園、七北田公園、仙台市野草園、八木山動物公園フジサキの杜

今回、これまでに開催されたフェアの来場者の実績を参考に、1次ターゲットを宮城県内にお住まいの方と決めました。



マスコットキャラクター「フォレッピー」  
候補3案の中から市民投票で決定したフォレッピーは、ある日、仙台の豊かな自然の中で育った大きな木から生まれた森の妖精で、趣味はのんびり日光浴をすること。

さらに仙台市の観光統計の実績を基に、2次ターゲットを岩手・山形・福島隣の3県に定め、3次ターゲットをその他の東北地方および首都圏と設定しました。これまでは、主に仙台市内の方々の周知活動に取り組み、市内の施設や学校などで、フェアのポスターの掲出を行ってききました。2022年6月には、フェアのマスコットキャラクターの市民投票を行い、「フォレッピー」が誕生しました。また、市民参加による花壇づくりの取り組みを数多く実施しており、その都度、地元誌やテレビでも取り上げていただきました。これからは、新聞やフリーペーパーなどのメディアや、まちなかの屋外広告も活用



メイン会場の全容  
メイン会場となる青葉山公園追廻地区、西公園南側地区、広瀬川地区では、「杜の都・仙台」のシンボルである豊かなみどりが体感できる。

### 各会場で 仙台の魅力を体感

メイン会場の青葉山公園は、地下鉄東西線に直結する立地です。フェアにお越しいただいた皆さんに中心部で買い物や食事を楽しんでいただけるよう、公共交通機関での移動を推進しています。また、東部エリアでは、現在、各会場を巡ることのできる周遊バスツアーも企画しているところ

です。  
未来の杜せんだい2023は大きなテーマとして、「次世代へと続く新たな百年の杜づくり」を掲げています。特に、若い方々やお子さんにもご来場いただき、緑の大切さ、緑のあるまちの良さを感じていただけるような、さまざまなイベントやコンテンツを用意しています。例えばメイン会場では、仙台ならではの飲食メニューの提供をはじめ、夜間イルミネーションイベントやフォレストアドベンチャー（アスレチック）、さまざまなステーションイベントなど、地元企業の皆さんと連携しながら、現在、企画を進めています。また、ツリークライミングなどの自然や緑を感じながら親子で楽しめるイベントも実施予定です。幅広い年齢の方に各会場を巡りながら、仙台の魅力を存分に体感いただけると思います。

### 新たなにぎわい創出のカギ 「仙臺緑彩館」が誕生

このフェアの開催に合わせて、青葉山公園追廻地区にオープンする「仙臺緑彩館（以下、緑彩館）」は、伊達家の家臣、片倉小十郎の屋敷跡に建設されました。青葉山の玄関口として、杜の都仙台の新たなシンボルの一つとなりますので、観光客の皆さんはもちろん、市民の皆さんにも訪れていただき、仙台への理解を深める場として活用いただければと考えています。

緑彩館では、仙台を回遊するきっかけとなるような各種情報を提供するとともに、館内の情報ラウンジでは、仙台のPR動画を放映します。内容は、杜の都の成り立ちや仙台のスポット情報のほか、瑞鳳殿や大崎八幡宮といった観光客向けの施設情報も提供します。また、仙台のまつり文化にふれていただくために、仙台七夕まつりの吹き流しや、仙台・青葉まつりの山鉾など、実物を展示してご覧いただく準備も整えています。さらに、オープン後には、スマートフォンを使って、自分の好みに合わせた仙台回遊マップを作ることができ、システムも導入予定です。また、歴史のガイドさんにご協力いただき、



仙臺緑彩館  
カフェやショップなども併設され、開催期間終了後も、日常的に人が集まる交流施設として活用される。

## 「未来の杜せんだい2023」に向けて 準備を進める方々にお話を伺いました。

本町の魅力を伝えつつ、  
自然環境を考えるきっかけに。



本町商店街振興組合（青葉区本町）  
理事長 湯澤 一也氏（右）  
ゆざわ かずや  
理事 山田 剛氏（左）  
やまだ たけし

これまで、商店街にある個性豊かな専門店や近隣の専門学校などと連携して、さまざまなイベントを実施してきました。まちの関係者が協力することでコミュニティの雰囲気の良いを醸成し、それが魅力としてお客さまに伝わるような取り組みが続いてきたという自負があります。そこで今回、この経験を生かして緑化フェアを盛り上げたいという思いから、商店街として「まちなかエリアイベント開催支援制度」の活用に手を挙げ、採択を受けることができました。

開催期間中は、街路に26カ所ほど花を植栽したハンギングバスケットを飾る予定で、4月29日にハンギングバスケットづくりのワークショップを開催し、一般の方々に作っていただくことになっていま



す。また、本町スクエアでは、映画の上映や飲食などのナイトマルシェを、4月28日に開催予定です。そのほか、期間中のまちの様子を写真に撮って、SNSにアップしていただくようなフォトコンテストも実施します。

今回のフェアでは、皆さんに花や緑を通じて自然環境を考えていただくことももちろんですが、花やファッションを中心としたお店が集まる、おしゃやで個性的な本町ならではの魅力に触れていただくことで、ぜひ、まちのファンになってほしいと思います。このほかにも、今年には商店街でのマルシェの開催など、定期的なイベントを計画しています。フェアの開催を足掛かりにして、引き続きお客さまをまちに呼び込んでいけるように、準備を進めていきたいと思っています。



街路に飾られるハンギングバスケットのイメージ。フェアの開催期間中は継続して展示され、看板を設置したり、ホームページやSNSを通じてその様子を発信することで、まちの回遊を促していく。

### 青葉山や広瀬川の風景とともに 当店を知っていただく機会に。



食・酒・笑 にこらす  
（青葉区大手町）  
代表 小原 健志氏  
おぼら たけし

12年前、和食の創作料理と、故郷である秋田の地酒を中心に提供する居酒屋を、大手町で創業しました。広瀬川と青葉山の風景が同時に眺められる、落ち着いたこの場所を選んで良かったと思っています。

そして今回、「未来の杜せんだい2023」に多くの人が訪れることで大手町の人の流れも変わるのではないかと考え、会場を回遊する途中に寄っていたいただけるようなお土産やテイクアウトで販売するためのメニュー開発を進めています。そのメニューの一つが、すでにお土産として販売している「ごま豆腐」。そしてもう一つが、エビとタマネギのさつま揚げ「大手町揚げ」です。現在、この二つのメニューをテイクアウト用にするため、試行錯誤しているところです。

さらに、以前から手狭になってきてい

て、お客さまをお断りすることも多かった。この機会に空室になった同じ建物の隣の部屋を借りて、思い切ってお店を拡張することにしました。これにより10席増えてチャンスロスが削減できますし、外窓部分に外販用のカウンターを設置してごま豆腐と大手町揚げを販売することで、新しい顧客層の開拓も見込んでいます。また、改装後には、週末限定で日中の営業も検討しており、カフェ感覚で利用できるようなドリンクメニューも考案中です。

今回のフェアを通じて、多くの方にこの地域の魅力を知っていただくとともに、当店の料理を、また大手町を訪れるきっかけとしていただければうれしいですね。



お土産で販売しているごま豆腐は、黒ごまと白ごまの2種類で1セット。生クリームと牛乳をたっぷり使うことで、もちもちでクリーミーな仕上がりに。

未来の杜せんだい2023の詳細は、  
公式ホームページよりご確認ください。

